

第45回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和2年12月7日(月) 18:05~19:30

2 形態 web会議

3 出席者 51名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

特になし

(2) 事務局・岡山大学病院

○令和2年度各拠点病院から情報提供があった研修会・講演会について報告があり、コロナウイルス感染症の影響による変更等があれば事務局へ情報提供いただきたいとの依頼があった。

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計(R2年度)について報告があった。

・閲覧数については、例年同様「セミナー・講習会(医療関係)」が最も多く、「がん拠点病院とは」「患者会・がんサロン」と続く。

・前回報告と同様、訪問者は9割以上が初回であり、地域別でも岡山県内の方が約8割アクセスしている。

(3) 作業部会等

① 地域連携パス部会

○令和2年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績(R2.7~R2.10集計分)について報告があった。

・コロナウイルス感染症の影響があるのか、合計において昨年同時期と比較してマイナス10件となっている。院内で目標は設定しているものの、説明人員の不足等により運用がうまくいっていないという現状がある。それぞれの施設で目標設定しているかと思うが、1件でも実績を上げていただきたい。また、情報共有や、使えるパスにするために現在運用しているパスについてのご意見をお願いしたい。

・最もパスを運用している施設に対して、コロナの影響でパスの運用が難しくなったり、トラブルになったことがあったか、またその対策等何か情報があれば教えていただきたいと意見があった。→パスの件数を増やすことだけにこだわってはいないが、実績が出ているのは事務方の協力が大きいと回答があった。毎月、関係するスタッフが集まって運用についてのミーティングを行っているから継続できているものと思われる。コロナに対しては特別何もしていない。

② がん相談支援部会

○9月7日にweb開催された第43回がん相談支援実務者会議について報告があった。

・広報活動として、9月がん征圧月間に、各施設で一斉にパネル展示を行なった。また、昨年度参加していた地域のお祭りはコロナ禍で多くが中止になり、唯一、備前市の子ども応援フェスタで広報活動ができた。図書館との連携展示についても拡大できず、昨年開催した3施設でのみ広報活動を行った。今年度は広報用資材としてのぼりとポールを各施設に配布しているのでイベント等で活用していただきたい。

・8月22日に、中国地区地域フォーラムがオンラインで無事に開催できた。

・がん相談員研修について、岡山市立市民病院 万波智彦医師に「大腸がんについて」講義をお願いしており、12月16日にオンラインで開催することとした。

・ピアサポーター研修についても対面で行うのは難しいため、12月19日にオンラインで開催できるよう準備を進めている。

- ・グループワークは、「COVID-19 への対応・体制」「コロナ禍での院外に向けた広報活動、情報発信について」をテーマに行った。
- ・例年、全都道府県から築地に集合して開催される情報提供・相談支援部会が、今年は11月27日にオンラインで開催された。アンケートでがんサロン・研修の開催についてはどの施設も困っている。全国から4施設の取り組み紹介があり、オンラインを利用してがんサロンを開催している施設、環境に気を配りながら集合型のがんサロンを再開された施設、オンラインを利用して研修を継続できている施設等が紹介された。
- ・来年度、情報コンテンツが新しくなると情報提供があった。
- ・H30年度に患者体験調査が行われ、岡山県からは2施設の患者に協力してもらい、全国22,000名の調査が行われた。その結果を受けて、本年11月「H30年度に患者体験調査に基づく提言書」が作成され、ホームページにも掲載されている。
- ・コロナが怖くて病院に相談に行けない、患者会・がんサロンを対面でできない等の問題が出てきており、オンラインで開催することになった時には個人情報の問題が出てくる。今後、コロナ禍で患者会活動を続けていく中で難しい点、またそれに対して何かサポートしてほしいと思っていることなど意見を聞かせてほしい。
- がん患者・家族会より、相談会が開きにくく、食事会も今年はすべて中止したと報告があった。Zoom を使ったの会はできないので、スマホのラインを使っておしゃべり会のような形で安否確認を行っている。Zoom がもう少し気楽に使えれば良いが・・・現時点ではスマホで連絡を取っている。
- 別のがん患者・家族会より、まだスタッフ自体が zoom が使える人が少ないため、まずスタッフに研修を行ってどうにか使えるようになったと報告があった。患者となると高齢ということもあり、zoom とか、パソコン自体が使えない人も多いため活動がしにくい。そこで、あまり公にはせず、小規模で不定期で会を開催している。

③ 緩和ケア部会

○以下、報告があった。

- ・8月31日にweb開催された第25回緩和ケア実務者会議において、緩和ケア研修会の取り扱いを中心に情報提供した。現況報告におけるがん診療連携拠点病院等の指定要件について、コロナウイルスの影響で原則年1回開催の緩和ケア研修会が開催できなかった場合は、報告時に記載しておけば事情を考慮すると厚生労働省から通達が来ている。今年は現況報告の提出が免除されたため影響がないが、来年度以降については新たな通知が来るものと思われる。
- ・本会議開催直前に緩和ケア研修会を開催した施設に注意点を話してもらい、開催ノウハウの共有を行った。ロールプレイ時にはフェースシールドを着用したことなどを情報共有した。
- ・本年度、緩和ケア研修会が開催できたのは4施設のみで、他は中止が決定している。開催した施設では参加者を自施設の医師に限定しており、自施設で開催しない病院（拠点病院以外）の医師が今年度研修を受けるのは難しい状況となった。
- ・岡山大学病院では9月19日に開催できたが、現在コロナの第3波が来ており、岡山県医師会から委託を受けていた12月20日の研修会は中止とした。拠点病院以外の病院に勤務する医師（研修医）からの申込みもあり、ぜひ開催したかったがやむを得ず中止とした。また、当院では今年度第2回目を開催することも考えていたが、現段階では難しい。

④ がん看護部会

○6月にメール会議を行い、今年度は各施設で看護研修を行って、来年3月開催予定の部会で発表してもらおうと報告があった。9月25・26日に当院にて、人数を制限した上でコロナ対策を施して岡山県がん薬物療法看護指導者研修会を開催した。資料5がその時のアンケートであるが、参加した意義があった、実践に役立つ等の高評価が得られている。自由記述では、他施設の状況を知ることができた、オンライン学習でこの量の学習はできなかったと思うから参加できて良かったという意見もあった。

⑤ 研修教育部会

- 9月14日にweb開催された第19回がん研修教育部会について報告があった。本部会では年1回研修会を開催しており、今年度は9～10月頃真庭地区で開催することが決まっていた。しかしコロナウイルスの影響で中止せざるを得なくなったため、本部会で今後の研修について話し合った。その結果、このコロナ禍でがん診療に少なからず影響が出ていると思われるため、「コロナ禍におけるがん診療連携の問題点」をテーマとして、県内のがん診療に携わる医療機関、訪問看護ステーション等も含めて幅広く医療従事者をリモートで結び意見交換をしてはどうかという意見が大勢を占めた。開催時期としては、来年2月頃、平日の夜間ではどうかとの意見がある。問題点の洗い出しについては、県内の医療機関にアンケートを実施することとし、広くアナウンスすることについては、現在岡山県と調整中である。
- 岡山県より、アンケート調査の項目が出てくれば、関係する医療団体に提示し、協力をお願いを行う予定であると報告があった。

⑥ がん登録部会

- 以下、報告があった。
- ・コロナの影響で部会が開けていないため得に報告事項はなく、今年度中にオンラインで開催したいと思案中である。問題点として、セキュリティの関係で国立がん機構がzoomのホストとしての使用を禁止しているため、Teamsが使用できるかなど、接続環境等について現在調査中であるが、web会議ができる部屋が1部屋しかなく希望の日時に使用しにくい等の意見も寄せられ、開催するのがなかなか厳しい状況である。
- 岡山大学病院より、岡山医療センターがzoomのホストになれないなら、連携協議会用に岡大で購入しているzoomで形式上岡大がホストになるという方法もあると提案があった。
- ⇒岡山医療センターが検討することとした。

⑦ がん薬剤師部会

- 7月30日にweb開催された令和2年度第1回がん薬剤師専門部会について報告があった。
- ・6月に金川地区で開催予定であった研修会をコロナウイルスの影響で中止したが、その代替をどうしていくかについて話し合った。少しweb開催を考えていきたいが、対面式の方が横のつながりは作れるのではないかという意見もあるので、今後もweb開催を中心に可能ならハイブリッドで進めていく方向で検討している。
 - ・今後の薬剤師部会のあり方についても議論があったが結論は出ていない。例えば薬剤師部会のホームページを作ってQ&Aを掲載していけないか、横のつながりを生かして他施設と研究ができないか等の意見が出ている。
 - ・PDCAサイクルについては、前回の親会議で田端委員より紹介されたものについて部会内で報告した。また、薬剤師の横のつながりを活かして、本件に限らず情報共有をしていくことを確認した。
 - ・次回の部会も年明けにweb上で開催することを計画している。

⑧ 歯科部会

- 以下、報告があった。
- ・歯科部門は3月に組織化したものの、コロナの影響もあってその後の部会は開催できていない。可能なら、web会議を行いたいと考えている。また、活動の中心となる歯科におけるがん連携（医科歯科連携）に関して、第12回歯科・口腔外科インテンシブコースを広報したのと、周術期医科歯科連携勉強会の開催を企画している。がん診療連携協議会独自の研修会がないため、連携に関する研修会を広く情報提供したいと考えている。
 - ・岡山県歯科医師会より、第12回歯科・口腔外科インテンシブコースについては、早速岡山県歯科医師会のホームページ上に掲載したと報告があった。周術期医科歯科連携勉強会については、岡山市立市民病院との連携をさらに充実させようと企画しており、来年2月下旬のweb開催を目指している。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院

- ・岡山産業保健総合支援センターより、治療と仕事の両立についての両立支援症例検討会の開催を進めていると報告があった。事業者、労働者、医療機関の方、支援機関の方にご参加いただき、web

上で2月下旬の開催を予定しており、現在労働局と調整中である。関係者には個別に案内するので協力をお願いしたい。

(5) その他

・岡山大学病院より、11月5日にオンライン開催された第13回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会について報告があった。

① **治療と仕事の両立支援施策について**：就労の問題はAYA世代にも高齢者にも大切で、2割の人はがん診断後に退職・廃業しており、そのうち半数以上は治療開始前に離職している。そこで、診断後(治療開始前)から関与していく必要があるが、企業・医療機関・患者との対話はとても難しいため、企業の人事労務担当や、病院の看護師・MSWなどコーディネーターする人材が必要となる。国としてはそこを充実させていくため、R2年度診療報酬改定において療養・就労両立支援指導料に対象疾患を追加し、研修を受けた「両立支援コーディネーター」が相談支援を行えば加算が取れるようにした。

また、第3期がん対策推進基本計画の今後のスケジュールについても説明があり、2021年度中に中間評価報告書をまとめ、第4期につなげる予定としている。

② **がん登録部会からの報告**：国のがん対策の進捗評価について実情を把握する目的で、H30年度に166施設に対して患者体験調査を実施した。回収率43%の回答を見たところ、受けた医療の総合評価としては約8割の人が満足しているが、2割程度は治療に納得していない。一方、医療スタッフの説明・対応について評価しているのは4～5割程度であったため、今後改善が必要である。AYA世代は、一般のがん患者・希少がん患者より医療者との対話ができなかった、つらさを相談できなかったと回答した人が多い。また、費用の面から治療を変更や断念せざるを得なかった人の割合も2～3倍高くなっており、今後のがん対策の重要項目になる。

③ **情報提供・相談支援部会からの報告**：(3)②で報告があったため割愛

④ **緩和ケア部会からの報告**：H30年度に遺族調査を実施したところ、医療者への対応は高く評価しつつも、人生の最終段階で約4割のがん患者が痛みや気持ちのつらさなどを抱えて過ごしていたことが明らかになった。亡くなる前1か月間の療養生活において、病院死亡者の方が施設や在宅よりも痛みが少ない状態で過ごせたようだ。また、亡くなる1週間前の痛みについて、約2割が「医師はある程度は痛みに対処してくれたが、不十分だった」と回答しているものの半数以上は「その他」「わからない」と回答している。

⑤ **がん診療連携拠点病院等の指定要件の見直しに関する意見交換**：あらかじめ各拠点病院にアンケートを実施したところ、全国一律に要件を定めるのではなく地方の実情に配慮してほしい、要件を満たしていれば同一医療圏に複数あってもすべて認めてほしい等の意見があった。見直し案については、同一医療圏に複数の地域拠点病院がある場合は、(県全体ではなく)その地域で協議会を設置して支援・協力体制を構築していくことが議論されている。

拠点病院からの要望として、ほぼ同時期に内容が似通った現況報告が多いので、可能な部分は一元化するなど拠点病院の負担を減らしてほしいという意見が多数寄せられている。

規定されている会議等について、web開催を含めた柔軟な体制を認めてほしいとの意見もある。

緩和ケアの提供体制については、意思決定支援(ACP)の研修の開催を指定要件に加えてはどうかとの意見もある。PDCAサイクルについては、要件となる項目が漠然としているのもっと明瞭化してほしいという意見も出ている。

これらのことについて次の指定要件に盛り込まれるかどうかは未定だが、議論が進められている。

⑥ **新型コロナウイルス感染症流行下での都道府県における活動**：鳥取県と京都府が発表。

京都府の例を紹介する。全国の調査で、緩和ケア病棟の7.5%がコロナ患者専用病棟に変更されたことが判明した。がん拠点病院の医師達は、新型コロナウイルスが増加すると緩和ケア施設で新規患者の受け入れ停止が起これ、がん患者をそこに送り出せなくなって、病院ががん診療をできなくなるのではないかと危機感を感じた。そこで京都府がん医療戦略推進会議で検討し、緩和ケア施設における院内感染リスクを避けるための紹介時のPCR検査の実施、がん治療施設の医師が必要とすればPCR検査を行うこと、がん治療病院から緩和ケア施設への入院についての取り決め等の決定事項を、京都府が府内医療機関に周知した。すぐに岡山県で取り組んだ方が良いというわけではないが、必要な時に検討する価値はある。

⑦ **事前アンケートの結果について**：コロナ禍での取り組み・工夫、困っていること・問題点、PDCAサイクル確保の取り組みについて等の結果である。

6 協議事項

・岡山大学病院より、がんゲノム医療を追求していくため、すでに取り組まれている施設、積極的に取り組んでいきたい施設に手上げ方式でご参加いただくことになるが、協議会でがんゲノム医療部会を設置していきたいと提案があった。現時点でこの分野に精通している岡山大学病院臨床遺伝子診療科 平沢教授に部会の運営をお願いしたいと考えているが意見はあるかと問いかけがあった。結果、特に意見はなく、ほぼすべての施設から賛同が得られたため部会を設置することが決定した。

平沢教授：昨年からは保険収載が開始したがんゲノム医療は、現時点では標準治療終了後に行われる治療です。また2020年からは遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)診療の一部保険収載がされました。がんゲノム医療部会では多職種連携、緩和を含めた地域医療連携や人材育成が必要になりますので皆様にご協力をいただきたい。

7 その他

8 次回開催日

令和3年4月5日、または4月12日を予定、開催日が近くなったら日程調整する。

(対面の場合は岡山大学病院 大会議室、コロナ収束状況ではweb開催の可能性もあり)